

第6回アラート委員会会議議事録^案

2024年5月15日（水） 15:00～17:00

日本ライオンズ事務所+ZOOMシステム

出席者リスト

一般社団法人日本ライオンズ

理事長	田名部 智之	(八戸LC)
専務理事	増澤 義治	(諏訪湖LC)
アラート委員会委員長	池原 堅	(福山久松LC)
アラート委員会副委員長	新里 正雄	(沖縄LC)

日本ライオンズ アラートチーム

統括リーダー	佐々木 健太	(大阪若獅子LC)
東日本統括リーダー	木村 知紀	(青森ZERO LC) 【WEB】
西日本統括リーダー	藤井 信英	(岡山みらいLC)

アラート委員

MD330委員	増田 正明	(東京田無LC)
MD331委員	浅野 敬一	(北見中央LC)
MD332委員	木川田 明弘	(仙台高砂LC) 【WEB】
MD333委員	中田 泰範	(新潟東LC) 【WEB】
MD334委員	堀岡 昭夫	(金沢東LC)
MD335アラートアドバイザー	平田 佳之	(大阪狭山LC)
MD336委員	西尾 慎一	(鳥取LC)
MD337委員	高野 裕子	(熊本平成LC) 【WEB】

委員長補佐・MD333アラート班長 若林 純也 (水戸葵LC)

- ・ 開会宣言 アラート委員長 池原 堅 より行われた
- ・ 出席者の確認
- ・ 議事録作成人 331 委員 浅野 敬一

337 委員 L 高野 裕子

以上、2 名が指名された。

• 議案 1 能登半島地震狀況報告

能登半島地震報告及び活動報告が、MD334 堀岡 昭夫アラート委員長より行われ資料も添付された。

中でも、現在の能登は復興の段階ではなく、復旧の段階である事が報告された。

今後の復旧には 10-15 年はかかると思われる、ライオンズとして何ができるかを考えていく必要があると思う、と報告。

その他、各委員も現在までの取り組みや今後の課題などについて、報告と意見交換行われた。

各委員からは日本ライオンズ・MD・地区委員会での連携の必要性、LCIF や MD, それぞれのレベルで足並みを揃えての支援が必要であること、委員会としての啓蒙活動が必要であると感じたと報告。

・議案2 能登ベースキャンプについて

能登ベースキャンプについて報告が行われた。

齊和コミュニティセンターの土地を借り、そこへプレハブを建築する。

賃貸契約書等の資料が添付され、半年分の土地の賃料・半年分の運営費・プレハブ建築費など予算 290 万については、日本ライオンズ・台風 19 号支援金余剰金より支払われる、理事会にて承認済である旨の説明が池原委員長より行われた。なお運営費 150 万は預かり金とし余剰については社団へ返還する。

賃貸等は6か月分であり、撤去か引き続き仕様するかは10月に決定する。継続使用の場合は334-D地区にて管理を頂く予定。

ベースキャンプが設置される事により、能登半島への支援が一層進むであろう事などの説明があった。

・議案3 災害支援功労者に対する社団からの感謝状贈呈について

佐々木統括リーダーから提案。規約変更に伴い今期でアドバイザー職が終了となることから、元アドバイザーへ贈呈を行いたい。各地区委員賛成。

また社団として感謝状の発行にはもう少し広く意見を募ることや、協議が必要であるとの意見、各複合地区、準地区においても何らかの表彰があってもいいと提案あり。今回はアラート委員長名にて作成する。

・議案4 その他

・来期以降の功労者表彰規定について

来期以降意見を聞き、表彰規定を整備したい。参加者へ意見が求められた。

複合・地区より推薦を頂く案も出たがあまりにも対象者が広範囲であるため、一度規定のたたき台を作成し、対象者や表彰理由などを含め、規定を整備するのが大切であるとの意見。アラート委員会内より担当者を選出し、規定を作成する。

他の委員会との兼ね合いから、アラートだけというのは難しいという意見もあり、社団の理事長名ではなくアラート委員長名での発行や全国アラートフォーラムの中で贈呈するのが良いのではないかという案も出された。

・報告事項

・334-D 地区で設置していた支援金口座について、2024 年 6 月末日をもって閉設となることが報告された。

・次年度全国アラートフォーラムは2025年3月14日（金）茨城県水戸市 水戸市民会館にて行われることが報告。現在 MD336 にある前回岡山での開催時の余剰金は今月中に日本ライオンズへ移動し、日本ライオンズから次期開催地である MD333 へ振り込む。

以上

議事録作成人

MD331 委員 浅野敬一

MD337 委員 高野裕子

(2023-2024)一般社団法人日本ライオンズ

第 6 回 YCE 委員会 議事録

開催日時: 2024 年 4 月 25 日(金) 14:00~17:00

開催場所: 対面 (一社)日本ライオンズ事務所

参 加 者: 一般社団法人日本ライオンズ

理 事 長 田名部 智之 (八戸 LC)※Web 参加

専務理事 増澤 義治 (諏訪湖 LC)

YCE 委員会

委 員 長 吉村 弘吉 (和歌山 LC)

副委員長 田中 雄一 (狭山 LC)

各複合地区 YCE 委員

330 複合地区委員長 ベイリー 久美子 (加須 LC)※欠席

331 複合地区委員長 鈴木 善一 (千歳 LC)

332 複合地区委員長 菊池 徳男 (北上国見 LC)

333 複合地区委員長 藤川 清幸 (前橋中央 LC)

334 複合地区委員長 石本 雅之 (鯖江 LC)

335 複合地区委員長 正岡 章 (吹田江坂 LC)

336 複合地区委員長 蔵本 守雄 (高松源平 LC)

337 複合地区委員長 岡 秀昭 (大川 LC)

次第による出席者確認と進行を一般社団法人日本ライオンズ YCE 吉村委員長が行った。

挨拶

(一社)日本ライオンズ田名部理事長より

今期も残すところ 2 か月となり、日本ライオンズが抱えていた大きな問題はほとんど解決に向かって進んでおります。

各委員会も動きが活発で様々なものが決まり、新年度は更に奉仕に集中できるよう、進んでおります。YCE 委員会におきましても、コロナ後本格的に動き出してきている元年と感じ、新しいユニフォームや手引きなど準備いただき感謝しています。来年度以降も活発に YCE 事業が進んで行くよう期待します、と挨拶した。

議事録作成人の指名

MD331 委員長の鈴木善一を指名した。

議 題（確認事項及び協議事項）

1. 第5回議事録確認

・ベルギーからの来日生が MD330 と MD334 へ申込を行っており、ダブルブッキングとなっていた件については MD334 で受け入れることで解決したと MD334 石本委員長より報告。

- ・YE 手引きのマニュアル改定について各複合からの意見を元に本日協議すると説明。
- ・MD333/335 からの交渉通信窓口の見直しについて本日協議すると説明した。

2. 春期交換報告

一覧表にて確認。

MD330 派遣タイ 3 名・グアム 5 名

田中副委員長より報告。グアムでは何らかのトラブルがあったが詳細は不明である。タイではホストファミリーの決定が直前となったことや、当初予定していなかったホスト家庭のもとへ滞在するなどトラブルがあったものの、派遣生もホスト家庭も満足のもと無事終了した。

※春期 YCE 事業完了報告を受け意見交換が行われた。

- ①YCE 委員会としてホストファミリーの急な変更など MD 内 YCE 委員会にて把握するよう務めたいと意見あり。YCE はクラブのアクティビティであることから、クラブの別の会員の元への滞在などが発生した場合も、先方へ速やかに伝えることができるようにすると先方も安心できるのではないか。
- ②ホストファミリーはホストクラブにてローテーションにて受入れ、ホストファミリークラブが責任を持つように取り組む。
- ③ホストファミリー情報としてクラブ会長やクラブの集合写真、アクティビティ等の活動写真、ホストファミリーの家族写真を添付すると相手も安心するし、来日してからのトラブル防止になる。
- ④ホストファミリーが集まり研修会を行った方が良いと思う。

➤上記意見をふまえ、次の内容を申し送りとする。

ホストファミリー、ホストクラブの研修会で（クラブ会長も参加）「YCE 事業は単一クラブのアクティビティであって、すべての責任はクラブが持つ（ホストファミリーの選定や受入（来日）先への情報提供など）ことが前提である」と通達し、各 MD とともに再確認するようになった。

3. 夏期交換の最終情報共有

・一覧表にて確認（派遣）

- MD330 MD4 で 4 名・フランス 1 名（合計 5 名）
- MD331 0 名
- MD332 テキサス 1 名・コロラド 2 名・MD4 へ 1 名（合計 4 名）
- MD333 スロベニア 1 名・ポーランド 1 名・リトアニア 1 名・チェコスロバキア 1 名（合計 4 名）
- MD334 スイス 1 名・エストニア 2 名・ベルギー 3 名・イタリア 5 名・ドイツ 5 名・マレーシア 9 名（合計 25 名）
- MD335 リトアニア 1 名・ルーマニア 2 名・アルバータ 2 名・ミシガン 2 名・オーストラリア 2 名・ニュージーランド 3 名・マレーシア 11 名（合計 23 名）
- MD336 0 名
- MD337 カンザス 4 名(+1 名検討)・マレーシア 3 名・シンガポール 12 名(計 19 名)

・一覧表にて確認（来日）

- MD330 オランダ 1 名・フランス 3 名・サウスカロライナ 1 名・メキシコ 1 名（合計 6 名）
- MD331 スイス 2 名・スペイン 2 名・フィンランド 4 名（合計 8 名）
- MD332 ノルウェー 3 名（合計 3 名）
- MD333 スロベニア 1 名・ポーランド 1 名・リトアニア 1 名・チェコスロバキア 2 名・ハンガリー 2 名・メキシコ 2 名（合計 9 名）
- MD334 スイス 1 名・フィンランド 2 名・イタリア 7 名・ドイツ 5 名・メキシコ 1 名（合計 16 名）
- MD335 スイス 1 名・スペイン 2 名・フィンランド 1 名・スロベニア 1 名・リトアニア 1 名・チェコスロバキア 2 名・ルーマニア 2 名・オランダ 1 名・フランス 1 名・ハンガリー 1 名・イギリス 1 名・アルバータ 1 名・メキシコ 1 名・インドネシア 1 名・マレーシア 7 名・インドが 1 名（合計 25 名）
- MD336 0 名
- MD337 0 名 ※冬にシンガポール約 9 名を予定中

※その他、共有事項

- (一社)日本ライオンズ吉村委員長、MD336 蔵本委員長の 3/17 台湾 YCE 事務局長訪問の報告

①台湾は、日本への派遣生を 25 名くらいと希望している。ぜひ受け入れてほしい。

日本から台湾への派遣生は、国際情勢のこともあり、来年にならないと分から

ないが10名くらいと想定している。

- ②台湾 YCE 事務局長の話で残念に感じたのは、日本とは断定はされていないものの、「ノンライオンの交換生の方は、台湾からの帰国後、没交渉となってしまう
友好継続が出来ていない、継続することが望ましいと考えている」とのご指摘
があったこと。

→解決策としての意見に、台湾のみならず、春節やクリスマスカードなどその
国の節目などにご挨拶を行った方がよい とオリエンテーションにて説明を行
うという案があがった。

友好継続は派遣生本人にとっても有益な機会である。

➤②の件は、次の内容を申し送りとする。

→派遣生帰国後開催の報告会で、ホストファミリーには年に1回程度の挨拶な
ど、帰国後も儀礼は欠かさないことを奨励する。派遣生である子供たちに大人
が指導することが必要である。また各複合・準地区の委員長にもあわせて申し
送りすること。

4. 前回からの協議事項の件

①YCE マニュアル改訂について

・協議が交わされ、日本の親善大使としての自覚を持ってもらいつつも、多様性・
ジェンダー平等に配慮し、現代の価値観にふさわしい表記とすることが申し合わさ
れた。また、ユニフォームという表記は用いず、「YCE ベスト」へ、名札・胸章
などを差す言葉については、「胸章（吊り下げ名札）」へ表記を統一する。

改訂箇所は以下の通り。

●P7：

①「1. 服装」全文差替

・服装については問いません。

但し、YCE ベストを団体行動、例会訪問、移動、出発・帰国の空港集合時は着用し
てください。

空港での本人確認は、胸章（吊り下げ名札）の ID No.で行われますので、必ず首か
ら下げ、前から見えるように着用してください。

※派遣先から服装指定があった場合にはそれに準ずる

●P12：

②「2. 出発直前」□1 ツ目全文差替

□YCE ベスト、胸章（吊り下げ名札）を着用していますか。

③「2. 出発直前」□2 ツ目、3 ツ目 全文削除

●P13：

④「YCE ユニフォーム着用図」：全文差替

日本の親善大使らしい清潔感のある身だしなみを心がける

YCE ベストを着用

胸章（吊り下げ名札）は首から下げる

⑤イラスト：

- ・ 下着衣（ズボン）は色を指定しないこととするため、イラストも白へ変更する。
- ・ 女子のスカートをズボンに変更
- ・ 胸章（吊り下げ名札）を首から掛けた図に変更
- ・ 参考として胸章（吊り下げ名札）のデザイン例を追加（ID No. ホストクラブ、名前（アルファベット表記含む等）

②窓口についての提案事項について

MD333 藤川委員長より：

MD ごとに決まっている担当窓口国について、付き合いの長い国や連絡を取り合っている国以外は共通国として全 MD 対応にし、必要に応じて個別対応とする提案。

窓口がない国への派遣希望でも国際協会のディレクトリより直接問い合わせることが可能になるため、各 MD 内のみで完結でき、シンプルになり解りやすくなる。

MD333 地区に関しては、MD5 地区及び 15 カ国窓口を 4 カ国（メキシコ、ブラジル、ポーランド、ハンガリー）だけ残して、それ以外は共通国としたい。

MD335 正岡委員長より

コロナ期間に YCE の交友はなく、一般ユースの担当者にその間に連絡が取れなくなる、などの事態が発生している。今回 MD335 への来日生もキャンプ参加が多く、国際協会のディレクトリからのキャンプエントリーが多く今後もその傾向が続くと考えられる。

ディレクトリからの参加申込があった際、窓口を固定して担当 MD を経由すると二度手間になることから改善が必要。

MD335 の場合は交換実績があり一般ユースの窓口として現在も機能しているニュージーランドとマレーシア（東マレーシア含む）以外（36 カ国）はオープン（共通窓口国）として良いと思っている。

もう一つの理由として、例えば MD330 ではイギリス、MD332 ではスウェーデン、MD336 ではマサチューセッツなど、派遣希望者が多いと想定される国もある。

派遣生の希望に応えやすくするためにもオープン窓口として直接交渉で対応できるほうが良いと思われる。

現在はほぼ交渉がない国でも希望があった場合担当窓口によるやりとりが必要となり、負担になっている。国担当通信窓口と交渉通信共通窓口による直接対応とした方がお互いに仕事の効率が上がるのではと考え、提案に至りました。

※現在キャンプ情報をアップしている複合地区は MD333 と MD335 である。

(一社)日本ライオンズ田中副委員長より：

330 複合地区 YCE 委員会にて、国際ディレクトリのキャンプ情報などを元に直接申し込むオープン窓口の形をとった場合、来日希望が MD330 に集中することが予想され対応が難しくなる為、国別交渉通信窓口は従前の通りの国対応にしたいと決定した。田中副委員長が複合地区 Y C E 委員長を務めていた 2021-2022 年度の日本ライオンズ Y C E 委員会でも窓口制度の見直しがあったが、来日希望が東京や大阪に偏り対応困難となることが予想されるので交渉通信窓口は現在のまま対応すると決定した経緯がある。

また、キャンプの対応だけなら可能かもしれないが、YCE という交換留学事業なので一方的ではなく、こちらから派遣希望がある場合は相手国にも来日してもらうなど交渉が必要。それぞれの地区より募集を募り派遣希望を先方へお知らせする際、とりまとめる窓口がないと相手国の仕事量が増えることになり、対応困難となるという意見があった。

その後各複合委員長より窓口制度について、活発な意見交換・各MDより事例の報告があった。

(一社) 日本ライオンズ吉村委員長より：

各 MD の立場より、いろいろなご意見があると思う。

事務局サイドの労力を減らして行くということは急務になります。

交渉通信窓口を減らす、残すなど、まずは複合地区 YCE 委員会にて準地区委員長を含めて議論していただいた上、毎年日本ライオンズ YCE 委員会で協議して行き、来期に関しては次回委員会にて最終決定とする。

(一社) 日本ライオンズ吉村委員長より総括：

次回日本ライオンズ YCE 委員会までに複合の YCE 委員会を開き各準地区の意向を確認、窓口担当する国を複合で選定をいただく。

それ以外のところは共通枠として一旦取りまとめる。共通枠で問合せ等入った場合には受けた MD で対応する。さらにそれ以外で問題点、困り事などが発生した場合には日本ライオンズのこの委員会の場に持ち寄り話し合い解決していく。

また窓口については選定しても固定化される訳ではなく毎年毎年メンテナンスを

していくこととしたい。

また、「複合地区 YCE 委員長の任期」について各複合の意見が出たが、『複合地区会則第 7 条 4 項』より「複合地区 YCE 委員長および IT 委員は、必要があれば、翌年度の 8 月 31 日まで、翌年度のガバナー協議会によって委嘱され、実務に当たる。」とあり、新旧を交えた交え引き継ぎを兼ねた会議を行いたい。

総括挨拶

(一社)日本ライオンズ増澤専務理事より

本日の会議は慎重審議の中、各複合委員長のお話の中に皆さんのやる気が感じられておりました。これから更に改善され進行して行くことと思われませんが皆さんがやりやすい方向にしていただければ良いと思いますので、色々のご意見をいただきながら、如何に子どもたちが充実した日々を送りながら笑顔で帰って来るかを頭に描きながら進めて参りましょうと話し総括とした。

閉会の挨拶

(一社)日本ライオンズ田中副委員長より

この YCE 事業は国際協会のプログラムの一つなので、皆さんの力を合わせて継続する方向で盛り立てるようにしていきたいと思いますので宜しくお願い致しますと挨拶され閉会した。

次回委員会開催日時

第 7 回 YCE 委員会 2024 年 6 月 12 日 (水) 10:30~12:00 web 開催

以上

2024 年 4 月 26 日

議事録作成人

MD331YCE 委員長 鈴木善一